

『令和元年度 麦類・野菜・花き・飼料作物に係る施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』の主な改正点

	作物名	改正前ページ	改正後ページ	項目	改正点	改正理由
1	麦類	1ページの前ページ	1ページの前ページ	効率的な施肥の推進	下線部の追記 (4)局所施肥や肥効調節型肥料の利用等により、環境等に対する負荷を軽減した効率的な施肥に努める。なお、 <u>肥効調節型肥料を使用するにあたり、従前の樹脂コーティングされた肥料を使用する場合は圃場外に流出させないよう環境に配慮するか、微生物分解性のコーティング肥料を使用するよう努める。</u>	令和元年6月11日付け元九生第304号九州農政局生産部長通知「農業生産に由来する使用済みプラスチックの適正処理等に関する技術指導について」に伴う被覆肥料の被膜核の流出防止対策に基づくもの
2	麦 (普通大粒大麦)	5	5	施肥基準	・1. 耕起畦立栽培型の施肥 1)地域別施肥量 平坦地域に「ニシノホシ」のほか「はるか二条」の基準を追加、山麓地域に「ニシノホシ」に、「煌二条」を追加併記するとともに、「はるか二条」の基準を追加 ・2. 全面浅耕平畦ドリル、全面全層播栽培の施肥、3. 大豆あと作麦類施肥の各施肥量について、「ニシノホシ」のほか「はるか二条」の基準を追加	平成31年2月の佐賀県奨励品種審査検討会において、普通大粒大麦「はるか二条」が奨励品種として、同「煌二条」が認定品種として採用されたため
3	キュウリ抑制	6	7	主要品種	ちなつ、エクセレント節成353を削除 ニーナ、結実637、常翔661を追加	品種の変化
4	キュウリ促成	6	7	主要品種	ハイグリーン21、極光607を削除 ニーナ、結実637、常翔661を追加	品種の変化
5	キュウリ半促成	6	7	主要品種	エクセレント節成353を削除 ニーナ、常翔661を追加	品種の変化
6	キュウリ夏秋	6	7	主要品種	ちなつ、一心を削除 常翔661、ニーナ、極光607を追加	品種の変化
7	丸トマト 抑制、促成	6	7	主要品種	ごほうび、ハウス桃太郎、桃太郎さくらを削除 麗容を追加	品種の変化
8	ミニトマト促成	6	7	主要品種	アイコを追加	品種の変化
9	ナス促成	6	7	主要品種	PC筑陽を追加	品種の変化
10	イチゴ促成	6	7	主要品種	さちのかを削除 いちごさんを追加	品種の変化
11	タマネギ早生	6	7	主要品種	アドバンスを追加	作付けが多いため
12	タマネギ中晩生	6	7	主要品種	ネオアースを削除	作付けが少ないため
13	コネギ夏秋	6	7	主要品種	夏葱を削除 ストレート、ふくいち葱、ブラックキング葱を追加	品種の変化
14	コネギ冬春	6	7	主要品種	ふくいち葱を追加	品種の変化
15	キャベツ	7	8	主要品種	新藍、冬春を削除 おきな、銀次郎、冬勝利、夢舞台、晩抽冬982、冬藍を追加	品種の変化
16	ブロッコリー 早出し	7	8	主要品種	ビクセル、サマードームを追加	品種の変化
17	ブロッコリー 普通	7	8	主要品種	おはよう、美緑410、晩緑99Wを追加	品種の変化
18	レタス夏秋	7	8	主要品種	アストラルを追加	品種の変化
19	レタス冬春	7	8	主要品種	レイヤードを追加	品種の変化
20	カンショ	7	8	主要品種	マサリを削除、ベにはるかを追加	品種の変化
21	レンコン	7	8	主要品種	金澄”8”号、幸祝を追加	品種の変化
22	ソラマメ	8	9	主要品種	唐此の春	品種の変化
23	花き	31	32	主要品種名	キク 優花 → 精の一世 トルコギキョウ リネーション系 → ボヤージュ・ボンボヤージュ・セブンリーズ ほおづき → 佐賀H5号を追加	近年の主要品種に合わせる
24	花き	33	34	キク(8)	夏ギク(優花等)については、→夏秋ギク(「精の一世」等)については	品種名の変更
25	飼料作物	40	41	イタリアンライグラス 1)品種	早生種に セロワン を追加	奨励品種
26	飼料作物	43	44	ソルゴー 1)品種	(乾草用、青刈用)うまかるーるを削除、タキイのハイブリッド、元氣ソルゴーを追加	奨励品種
27	施肥関係参考資料(野菜・花き)	64	65	8. 全量元肥を前提とした肥効調節型肥料利用上の留意点	(以下事項の追加) 6. 元肥一発肥料など肥効調節型肥料の使用の際は、微生物分解性のコーティング肥料を使用するか、樹脂コーティングの肥料を使用する場合は圃場外に流出させないよう、環境に配慮する。	令和元年6月11日付け元九生第304号九州農政局生産部長通知「農業生産に由来する使用済みプラスチックの適正処理等に関する技術指導について」に伴う被覆肥料の被膜核の流出防止対策に基づくもの
28	農業適正使用	113	114	誤認の多い農作物への農業の適正使用の指導について	・「農業登録における誤認しやすい農作物の例」の更新 ・作物区分の掲載場所アドレス(独立行政法人農林水産消費安全技術センター)の更新	・農業適正使用の推進のため。 ・作物群見直しにより、掲載場所が変わったため
29	防除関係	147,256 309,381 446,465 535	148,257 309,378 442,461 525	「農業登録情報提供システム」の使用方法について	(注意事項の追記) 現行の農業登録情報提供システムが、「適用農作物の作物群の見直し」に対応しているかどうか等の最新情報は、本システムのトップページの注意事項等を参照する。	平成31年4月1日から適用農作物の作物群が見直されたが、現行の農業登録情報提供システムは、まだ見直しに対応していないため(このことは、本システムのトップページに記載されている)。

	作物名	改正前ページ	改正後ページ	項目	改正点	改正理由
30	麦類	131	132	2. 赤かび病 2) 防除のねらい	小麦: 開花後の防除について追記 パン用小麦は2回防除を基本とする旨追記 大麦: 「はるか2条」については2回防除を基本とする旨追記	防除対策の強化のため
31	麦類	133	134	3. 網斑病(大麦) 2) 防除のねらい	早い時期から本病が発生した場合の対応について記載。	近年、本病が多発生するとともに、発生が早進化傾向にあるため。
32	野菜・花きの侵入害虫	153, 163 165, 170	154, 164 166, 171		一部病害虫の写真の追加。	防除対策の強化のため
33	キュウリ	180	181	灰色かび病	・7 ケンジャフロアブル(イソフェタミド)の追加	展示圃成績良好のため
34		190	191	コナジラミ類	・4C トランスフォームフロアブル(スルホキサフロル)の追加	展示圃成績良好のため
35	イチゴ	199-200	200-201	うどんこ病	・7 オルフィンフロアブル(フルオピラム)の追加 ・7 ネクスターフロアブル(イソピラザム)の追加 ・7 パレード20フロアブル(ピラジフルミド)の追加	展示圃成績良好のため
36	トマト	221	222	灰色かび病	・7.9 ピカットフロアブル(ベンチオピラド・メバニピリム)の追加	展示圃成績良好のため
37		226	227	葉かび病	・7.9 ピカットフロアブル(ベンチオピラド・メバニピリム)の追加	展示圃成績良好のため
38		229-230	230-231	コナジラミ類	・5 ダブルシューターSE(脂肪酸グリセリド・スピノサド)の追加 ・4C トランスフォームフロアブル(スルホキサフロル)の追加	展示圃成績良好のため
39	タマネギ	260	261	1. べと病 1) 生態 2) 防除のねらい 3) 防除方法 ・耕種的防除 ・薬剤防除	文章の更新 1) 生態の文章改正(より具体的な記載内容に変更し、新たな知見も加える。) 2) 防除のねらい (1) 本病は土壌伝染するを 本病の第一次伝染は土壌を介して行われるに修正 3) 防除方法 ・耕種的防除 (1) 夏季の水稲作は発病の抑制に有効と考えられるを 夏季高温期の50日間灌水処理は、発病の抑制に有効である に変更。 ・薬剤防除 (4) 定植直後から を 定植前(定植5日前～前日)あるいは定植直後から に変更。 ・「表1 タマネギべと病の感染期と防除期間」を削除し、「図2 早生タマネギにおけるべと病の感染時期と薬剤防除体系(例)」と「図3 中晩生タマネギにおけるべと病の感染時期と薬剤防除体系(例)」を追加。	防除対策の徹底のため
40		262	264	1. べと病 3) 防除方法 ・薬剤防除	・M3 グリーンダイセンM水和剤の追加(マンゼブ) ・ジマンダイセン水和剤の備考に、「展着剤として、ミックスパワー(3000倍希釈)あるいはまくびか(5000倍希釈)を加用する。」と追記。	展示圃成績良好のため
41		262	264	1. べと病 3) 防除方法 ・薬剤防除	・CAA系薬剤(系統番号40)の備考に、「耐性菌の発達を防ぐため、定植前後の2回の使用に限り、春期の防除には使用しない。」と追記。 ・M1 ヨネボン水和剤の削除 ・11+M5 アミスターオプティフロアブルの削除 ・21 ランマンフロアブルの削除 ・40 レーバフロアブルの削除 ・27+M5 プリザード水和剤の削除 ・27+11 ホライズンドライフロアブルの削除 ・27+40 ベトファイター顆粒水和剤の削除	防除対策の徹底のため
42		-	272	11. 黒かび病 項目の追加	1) 生態 本病は、夏季貯蔵中にAspergillus nigerによって引き起こされる病害である。本菌はタマネギ茎葉あるいは鱗茎の傷口より侵入し、発病させ、鱗片の外側上部に境界のはっきりしない水浸状の病斑を形成し、その部位に多数の黒色の胞子を形成し、商品価値を低下させる。 2) 防除のねらい (1) 高温での貯蔵を避ける。 (2) 茎葉が傷つかないよう、立毛中にべと病、ボトリチス葉枯症、ネギアザミウム等の防除を徹底する。	防除対策の強化のため
43		270	273	ネギアザミウム	・28 ベネビアODの追加(シアントラニプロール) ・30 グレーシア乳剤の追加(フルキサメタミド) ・UN ファインセーブフロアブルの追加(フロトキン)	展示圃成績良好のため
44	レタス	298	299	アブラムシ類	・4C トランスフォームフロアブル(スルホキサフロル)の追加	展示圃成績良好のため
45	アスパラガス	313	314	茎枯病	・11. 7 シグナムWDG(ピラクロストロビン・ボスカリド)の追加 ・M01 兼商クプロシールド(塩基性硫酸銅)の追加	展示圃成績良好のため
46		318	318	ネギアザミウム	・14 リーフガード顆粒水和剤(チオシクラム)の追加	展示圃成績良好のため
47	レンコン	-	323	スクミリンゴガイ	新規項目の追加(スクミリンゴガイ) ・スクミノン(メタルデヒド)の追加 ・UN スクミンバイト3(燐酸第二鉄)の追加	防除対策の強化のため 展示圃成績良好のため
48	キク	388	385	黒斑病・褐斑病	生態の一部変更(伝染源の説明追加) →変更後文章 1) 生態 両病害の病徴は非常に似ており、区別がつけにくい。本病菌は罹病葉上越冬し、翌年の伝染源となる。落葉した罹病葉から翌年降雨等により分生子がはね上がり、下葉から発病してくる。潜伏期間は28℃で20日前後と長い。	防除対策の強化のため
49	トルコギキョウ	409	406	斑点病	防除薬剤にダコニール1000の追加	防除対策の強化のため

	作物名	改正前ページ	改正後ページ	項目	改正点	改正理由
50	カーネーション	417	413	ハダニ類	防除薬剤のペンタック水和剤 IRACコード欄に「2A」を追加 備考に「施設栽培に限る」を追加	記載漏れであったため
51	ストック	425	421	苗立枯病	生態、防除のねらい、防除法の文章変更 1) 生態 育苗中や定植直後の苗に発生する。地際部付近が褐変し細く びれ、地上部は萎凋枯死する。病原菌の生育適温は25～30℃ で、高温でやや多湿の時に発生しやすい。 2) 防除のねらい 無病の用土を用い発病を防ぐ。 3) 防除法 ・耕種的防除 (1) 育苗には無病の用土を用いる。 (2) 発病株は早急に取り除き適切に処分する。	防除対策の強化のため
52		425	422	新規追加 苗腐病	苗腐病の項目を新規に立ち上げ、以下の文章を記載する。 1) 生態 育苗期や定植直後に発生する。幼苗の地際部が腐敗し、倒伏、 枯死する。病原菌の生育適温は25～30℃で、主として雨水や灌 水を経て伝染する。 2) 防除のねらい 無病の用土を用い発病を防ぎ、過湿状態にならないようにする。 3) 防除法 ・耕種的防除 (1) 育苗には無病の用土を用いる。 (2) 育苗は排水をよくして過湿状態が続かないようにする。 (3) 灌水には水道水などきれいな水を使用する。	防除対策の強化のため
53	飼料作物	460	456	飼料用米生産 における農業 使用について	3. 1及び2の低減対策を要しないもの。 【農薬成分の追加】 エトフェンプロックス、テブフロキン	「飼料として使用する籾米への農薬の 使用について」の一部改正について (H30.12.19)
54		461	456-457		殺虫剤 【薬剤の追加】 トレボン水和剤、トレボン乳剤、トレボン粉剤DL、トレボンMC、トレ ボンサーフ、なげこみトレボン、トレボン粒剤、トレボンスターフロア ブル、スタークルトレボン粉剤DL、トレボンスター粉剤DL	
55		462	458		殺菌剤 【薬剤の追加】 トライフロアブル、トライ2粉剤DL	
56	病害虫防除 共通資料	469-471	465	(2) 薬剤抵抗 性害虫及び耐 性菌の防除薬 剤について	「薬剤抵抗性農業害虫管理のためのガイドライン案(2019年3月20 日版)」のリンクを掲載	今回、抵抗性農業害虫管理の考え方 について、農研機構から最新の考え 方が示されたことから、この点に関連 する記載内容を一新する。
57	病害虫防除 共通資料	488	482	(6) 野菜品種 の耐病性	2. トマトの台木用品種の抵抗性 品種・耐病性の表を更新	情報更新
58	麦	517	510	VII 雑草防除・ 植調剤 (1) 麦類播種 前の雑草防除	バスタ液剤「三共の草枯らしに同じ」 →(改正後) 接触型茎葉処理剤なので周囲への飛散を避けるため散布はでき るだけ低圧で行なう。 また、必要に応じて飛散の少ないノズルや飛散防止カバーを使用 する。 処理後6時間以内の降雨は効果を減じることがあるので天候に 注意する。	防除対策の強化のため
59	麦	518	510	VIII 雑草防除・ 植調剤 (2) 麦類播種 後の雑草防除	ゴーゴーサン乳剤30 → ゴーゴーサン乳剤	ゴーゴーサン乳剤30は、製剤変更の ため、現在、ゴーゴーサン乳剤にほぼ 変更されている。
60	麦	521	510	VIII 雑草防除・ 植調剤 (2) 麦類播種 後の雑草防除	ゴーゴーサン細粒剤F 「サターンバアロ粒剤及びゴーゴーサン乳剤の項に準ずる」 →(改正後) (1) 碎土・整地をよくし覆土2～3cmとする。 (2) 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適 度の水分を含んでいる時に散布する。 (3) 湿田・排水不良条件(平畦)では出芽抑制がみられるので使用 をさける。	防除対策の強化のため
61	防除関係 参考資料	542-544	531-535	ミツバチに対す る薬剤散布の 影響	令和元年度版に改正	情報更新